

現職教育実技研修 資料

文責：須賀川市立仁井田小学校 國井 伸行

期日：平成19年9月10日（月）

場所：郡山市立永盛小学校

1 子どもの絵の見方

※ 県の造形研究会に参加して・・・

「これは、本当に子どもが描きたかった題材なのだろうか。」

「子ども不在。子どもの心が見られない。楽しくない。やらされているという感じ。」

(1) 発達段階に合った描画法とは（別紙参照）

・ 知的写実性と視覚的写実性

学年	題材例
1年	空飛ぶ夢のバス ○○と遊んだよ くじらぐも 私のお日様 いもほり お話の絵
2年	キラキラシャボン 動物ランド ザリガニ 雪のお城 ミニトマトができたよ
3年	どんぐりと山猫 スイミー 花がいっぱい モチモチの木 大きな木と遊ぼう
4年	楽器の世界 秋を見つけたよ 懸垂もうちょっと ヘチマが採れたよ 忘れられない日
5年	夕暮れの景色 私たちの学校 縫い物 郷土芸能 心を動かされた場面 鉄棒遊び
6年	窓辺の鉢植 自分を見つめて スケッチを集めて 私の好きな風景 見上げた風景

(2) 画一的表現と多様な表現方法の選択とは

・ 酒井式、キミ子方式、K式、○○式の絵は・・・作品としてではなく習作と考えてはどうか。

・ 作品とは、自分にあった描画法を子どもに選択させ、それらのエッセンスを表出したもの。

(3) 評価の観点

①造形性が豊かであるか

- 色彩が豊かである。
- 色彩が調和している。
- 形に変化がある。
- 動きがある。
- 空間に広がりがある。
- ボリュームがある。
- リズムがある。

②個性的であるか。

- 対象から受けた感動をストレートに表現している。
- その子なりの工夫をしている。
- 見る人の顔がほころぶ
- 対象と本人の関わりが感じられる。
- 発達に即している。



2 楽しい実技

「造形遊びの感覚を取り入れた描画法の紹介」

(1) 伝統的描画法

○線画（鉛筆、わりばしペン、サインペン等）を描いて、水彩絵の具を混色して彩色する。

●根気強さが必要。絵の彩度が下がる。暗い絵

(2) K式描画法その1（透明水彩的描画法）

○線画をせず、水彩絵の具を混色せず、画紙の上で自然に混色させる。

○鮮やかな色彩。偶然性。楽しい。遊び性。

①準備：（水彩紙、水彩絵の具セット、陰影のはっきりした白黒写真）

②絵の具を白、黒以外全色パレットに出す。（色彩を豊かにするため）

ワンポイント！ 白、黒は使わない

③水をたっぷり含ませた筆で絵の具を溶く。

ワンポイント！ 原色を使う。

④影の部分に基調になる絵の具を置いていく。

ワンポイント！ 絵の具をこすらず、水たまりをつくるように

⑤別の絵の具を流し込む（ウエット・オン・ウエット技法）

ワンポイント！ 濃淡を付ける。輪郭に近い方に強い色を置く。補色を効果的に使う。

⑥自然に乾燥させる。

ワンポイント！ エッジを崩さない。自然に絵の具を混じり合わせる。

(3) K式描画法その2 (不透明水彩的描画法)

○線画をせず、はじめにバックを霧吹きで彩色し、乾燥させてから水彩絵の具で直接描画する。

○奥行き。書き込みが容易。楽しい。遊び性。

①準備：(霧吹き、水彩紙、水彩絵の具セット)

②水彩紙に霧吹きをする。十分にかわかず。

ワンポイント！ 絵の具の濃度を適度に。やりすぎると流れてしまう。

③絵の具で重ね描きをしていく。

ワンポイント！ 濃い色のところに白を使うと効果的。完全にかわいてから次の色を重ねる。